

秋田県仙北市との協定締結

2017年8月1日、本研究科は秋田県仙北市と、地域社会におけるエネルギー、希少資源による産業振興及び教育の充実を図ることを目的とした連携協定を締結した。この協定に基づき、今後本研究科と仙北市は、それぞれの資源や機能等を活用しながら、連携協力して事業を展開する。仙北市田沢湖総合開発センターで14時から開催された締結式では、門脇光浩仙北市長と吉岡敏明研究科長、立会人として青柳宗五郎仙北市議会議員が協定書に署名し、固い握手を交わした。協定式に引き続いて開催されたシンポジウムでは、議会議員、電力関係者、仙北市内温泉事業者、教育関係者らが来場し、会場である田

沢湖総合開発センター大集会室(150名収容)はほぼ満員となった。登壇した土屋範芳教授、川田達也教授、香坂玲教授は、仙北市の持続可能な地域社会としての将来像について、それぞれの専門分野から講演を行った。参加した市民は、ユニークな温泉資源や希少資源、豊かな自然に恵まれた仙北市のエネルギー的な可能性について理解を深めた。本締結式と記念シンポジウムについては、7月11日に東北大本部よりプレスリリースを行った。当日は秋田魁新報社が取材に訪れ、8月5日(土)付紙上にて報道されている。

締結日：2017年8月1日

会場：秋田県仙北市田沢湖総合開発センター



「たまきさんサロン」を中心とした環境科学研究科と仙台市との連携活動

2016年4月の開所式以降、「たまきさんサロン」を中心として行われる公開講座や環境学習という形で、本研究科は仙台市との連携によるアウトリーチ活動を行っている。2017年は計6回の講座で環境科学研究科教員が講師を務めた。実施日と講座名、担当教員は下記の通りである。

2017年1月26日
仙台市環境学習・水素で自動車模型を動かしてみよう
和田山智正 教授
参加者：25名



2017年5月13日
携帯電話をとことん分解～電気電子機器に眠る金属資源～
白鳥寿一 教授
参加者：27名

2017年6月4日
仙台商人、紙づくりの再生に挑む～天保飢饉後の生業作りと協働～
佐藤大介 准教授
参加者：12名

2017年7月27日、10月1日、12月26日
木育ワークショップ(全3回)
古川柳蔵 准教授
参加者：30名、28名、26名



第43回環境フォーラム

田路和幸教授が理事長を務めるNPO法人環境エネルギー技術研究所(SFTEE)との共催により、第43回環境フォーラムを開催した。今回は、3月に決定したSFTEE第8回奨学賞受賞者1名と研究奨励賞受賞者1名の記念プレゼンテーションと、高橋准教授によるナノ材料を工業材料に応用する技術等についての講演が行われた。

日時：2017年5月19日 16:00-17:15

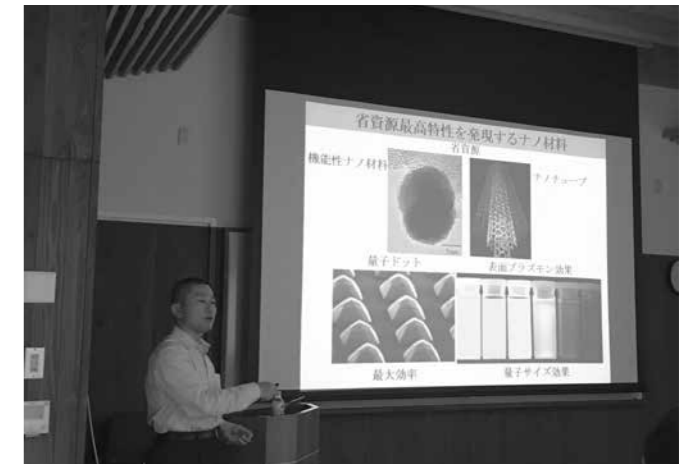
会場：環境科学研究科エコロラボ第4講義室

内容：

窒素含有炭素ナノ触媒材料の最適構造設計に向けたアプローチ
横山幸司(D2)

低環境負荷な手法によるナノ構造化熱電材料の作製 / 横山俊 助教
機能性合金ナノ材料の省エネルギー・省資源・低コスト合成法の開発
高橋英志 准教授

参加者：20名



みやぎ県民大学 大学開放講座「科学の目で見える環境とリサイクル」

「みやぎ県民大学」は、宮城県が県民の生涯学習の場として運営しているもので、「趣味教養」「自然環境」「製作実験」「健康食育」といった幅広いテーマで講義が行われている。当研究科では、県の依頼を受けて例年「自然環境」のテーマで講座を開講している。今年度は、「科学の目で見える環境とリサイクル」と題し、現代における地球環境問題の概要を取り上げながら、環境保全と循環型社会の構築に必要な技術について講義した。

日時：2017年6月30日～7月28日 毎金曜日 17:30-19:00

会場：環境科学研究科本館

内容：

第1回(6月30日)：金属リサイクルの現状と課題

コマロフ セルゲイ 教授

第2回(7月7日)：ダイオキシン汚染、環境ホルモンの今

葛西栄輝 教授

第3回(7月14日)：水素エネルギー最前線

折茂慎一 教授

第4回(7月21日)：極微量分析と環境評価

我妻和明 教授

第5回(7月28日)：水素社会の実現に向けた要素技術としての触媒開発—燃料電池自動車を例として

和田山智正 教授

参加者：12名



環境科学研究科「研究交流会」

2015年より、環境科学研究科は発足以来続いた1専攻体制を改組し「先進社会環境学専攻」と「先端環境創成学専攻」の2専攻体制となった。この変革にあたり、専攻間やコース間の研究交流を促進し、専門分野間の情報交換を活性化させて研究科内の良好な融合と境界領域の開拓を目指すため、年2回のペースで「研究交流会」を開催している。研究交流会で行われる発表は、単なる研究発表ではなく、

研究の背景や研究思想を中心とするところに特徴がある。また、参加者が紙に記入したコメントを後日発表者に渡してフィードバックを図ることで、双方向性が担保されている。2017年に実施された2回は前年と同じく発表者6名(発表20分、質疑10分)で行われた。今後、さらに研究交流会を有益なものとするため、学生の積極的な参加をいかに図るかが課題といえよう。

◆研究交流会 2017 夏

日時: 2017年8月4日

会場: 環境科学研究科本館大講義室

発表:

国際エネルギー資源学

/ Gregory Trencher 准教授

国際エネルギー資源学 / Kyle Bahr 助教

地殻エネルギー抽出学 / 伊藤高敏 教授

金属資源循環システム学 / 柴田悦郎 教授

歴史環境学 / 佐藤大介 准教授

内陸アジア地域論 / 岡洋樹 教授

参加者: 58名



◆研究交流会 2017 冬

日時: 2017年12月22日

会場: 環境科学研究科本館大講義室

発表:

機能性粉体プロセス学 / 加納純也 教授

環境物質政策学 / 下位法弘 准教授

環境材料分析学 / 我妻和明 教授

環境材料政策学 / 鳥羽隆一 教授

水素機能システム材料学 / 折茂慎一 教授

新日鐵住金連携講座(環境適合材料創製学)

/ 佐藤有一 教授

参加者: 44名



コロキウム環境

本研究科では2004年より「コロキウム環境」と名付けられた研究集会を実施している。これは、従来研究室ごとあるいは研究グループごとに行われてきた内外の研究者の講演や研究集会等を、研究科のオーソライズされた形式自由な研究集会として研究科内外に広く公開するものである。講演者は海外研究者、学外研究者等多彩で、いずれも活発な議論が行われており、科内の環境科学研究の活性化に寄与している。開催100回を迎えた本年1月30日の回では、本学法学部OBでもある環境省 総合政策局の奥主善美局長をお招きし、温暖化問題について行政の現場ではどのようなアプローチがなされているかをお話し頂いた。2017年に開催されたコロキウム環境は下記の通りである。

第99回 World Disaster and Human Security –世界の災害と人間の安全保障–

日時: 2017年1月17日 16:30-19:30

発表: 竹谷公男 氏 国際協力機構 上席国際協力専門員(東北大学特任教授)

山田正 教授 中央大学理工学部(水文水資源学会 前会長)

参加者: 44名

第100回 地球温暖化対策の現状と課題について

日時: 2017年1月30日 13:30-15:00

発表: 奥主善美 氏 環境省 総合環境政策局 局長

参加者: 51名



第101回 The 7th IELP Meeting and Special Seminar "Recycling Materials and Resources"

日時: 2017年3月13日 9:00-15:20

発表: Recovery of Metal Values from Photovoltaic Ribbon of Spent Solar Module / Prof. Jei-Pil Wang, Department of Metallurgical Engineering, South Korea

Performance and analyses of thick soft clay deposit improved by PVD with surcharge preloading and vacuum consolidation / Prof. Nguyen Minh Tam, Vietnam National University

Improvement of recycled aggregate concrete properties by coating pozzolanic materials / Prof. Shun Myung Shin, KIGAM, South Korea

参加者: 参加者 36名

第102回 国連大学 東北大学 研究交流会

日時: 2017年3月21日 9:30-15:45

発表: 本学の取り組み紹介 / 香坂玲 教授, 小森大輔 准教授

国連大学 IAS の活動・研究ご紹介 / 真砂佳史 氏 国連大学リサーチフェロー

国連大学 IAS OUIK 活動紹介 / 永井三岐子 氏 国連大学 事務局長, 飯田義彦 氏 国連大学 研究員

国連大学グローバルヘルス研究所の活動, 研究内容 / 堤敦朗 准教授 国連大学

本学 医学研究科について 発表・コメント / 押谷仁 教授 東北大学・医, 江川新一 教授 東北大学・医

参加者: 20名



第103回 Monitoring and Reinforcement of Ground Subsidence in Abandoned Mine Area

日時: 2017年4月4日 10:00-11:30

発表: Prof. Chung-In LEE, Seoul National University

参加者: 23名

第104回

日時: 2017年5月9日 15:00-17:10

発表: 内生微生物との相互作用を介した植物の重金属耐性: リョウブ・ススキを例として / 山路恵子 准教授 筑波大学

ファイトレメディエーション適用技術の新展開 –電気化学・数理統計の応用– / 菅原一輝 助教 成蹊大学

PETISによる亜鉛高蓄積植物ハクサンハタザオのZn吸収挙動の解析 / 黄毅 研究員

参加者: 26名

第105回 気候変動枠組条約で何が交渉されているのか –REDD+の最前線を現役官僚が分かりやすく解説–

日時: 2017年6月7日 13:30-14:30

発表: 大仲幸作 氏 林野庁 海外林業協力室

参加者: 20名

第106回 地域内の木質エネルギーを活用した、しいたけ生産による林業の6次産業化

日時: 2017年6月14日 13:30-14:30

発表: 日富和孝 氏 久慈バイオマスエネルギー(株) 代表取締役

参加者: 18名

第107回 グリーンインフラの潮流

日時: 2017年6月26日 11:00-11:45

発表: 西田貴明 氏 三菱UFJリサーチ & コンサルティング(株)

参加者: 16名

第108回 良き生のための知財・地理的表示の活用

日時: 2017年8月3日 11:15-12:30

発表: Prof. Madhavi Sunder, University of California, Davis, School of Law

参加者: 18名

第109回 環境問題解決に向けた超学際科学の方法論とエビデンス提示

日時: 2017年9月19日 13:30-14:45

発表: 超不確実性(hyper uncertainty) 社会における問題解決のための科学: 超学際科学とその実践例 / 石井敦 准教授

関与物質総量を通じた「食」に関する資源強度の可視化 / 山末英嗣 准教授(立命館大学)

参加者: 15名

第110回 Synthetic Biology: a new approach to bioenergy technology

日時: 2017年10月5日 15:00-16:30

発表: Dr. 張瑞仁 台湾中国医薬大学 医学研究所

参加者: 32名

第 111 回 Ecology of hydrocarbon degrading microbial communities in coastal environments
 日 時：2017 年 10 月 12 日 15:00-16:30
 発 表：Prof. Robert Duran, Université de Pau et des Pays de l'Adour Equipe Environnement et Microbiologie
 参加者：27 名

第 112 回 Healthy People, Sustainable Planet
 日 時：2017 年 11 月 13 日 16:20-18:20
 発 表：Mr. Hiroyuki Tsutsumi, President & CEO, Philips Japan
 参加者：118 名



関西創価高校ワークショップ

文部科学省スーパーグローバルハイスクールの指定を受け「TRY 人（じん）の郷・交野から平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム」を実施する関西創価高等学校の 1～2 年生 20 名を対象に、ディベート形式のワークショップを行った。ワークショップの進行は和田山教授が行い、小講義「なぜ地球環境問題についてディベートを通して学ぶか？」を通じてワークショップの意義を共有した後、4 グループに分かれて 2 試合のディベートが行われた。テーマは事前の選定により「既存の原子力発電所は積極的に再稼働すべきである」と「CO₂の地下貯留を推進すべきである」の 2 題であった。



日 時：2017 年 3 月 21 日 9:00-11:30
 会 場：エコラボ第 4 講義室

環境科学研究科オープンキャンパス

2017 年 7 月 25 日と 26 日の 2 日間、東北大学オープンキャンパスが開催された。環境科学研究科を訪れた計 1950 名の来場者に対し、研究室のパネル展示や公開講座を通じて本研究科の研究教育活動に理解を求めた。
 2017 年の研究紹介展示は下記の通りである。

大気環境を左右する微量成分の観測的研究 / 村田研究室
 環境ナノ材料 ー太陽光で水素を作るナノ光触媒 / 廃熱から電気を作る熱電変換ナノ材料 / 省資源高機能ナノ材料ー / 田路研究室
 地殻環境・エネルギー技術の新展開 / 高橋・坂口研究室
 人と地球にやさしい社会を実現する新材料の開発 / 小俣研究室
 地圏環境の今 ーエネルギー・資源・リスク評価ー / 駒井研究室
 電波科学による地球計測 / 佐藤（源）研究室
 非鉄製錬技術を基盤とした金属循環システムの構築 / 柴田研究室
 環境・エネルギー問題を考えた大規模地殻工学 / 伊藤研究室
 次世代型ライフスタイル創成に貢献できる機能性複合材料の開発 / 佐藤（義）研究室
 環境負荷低減のための電子デバイス創製 / 鳥羽研究室・下位研究室
 新たな水素社会を実現する粉体プロセス技術 / 加納研究室

国土強靱化と循環型社会の構築を目指してー建設副産物の再資源化・環境調和型開発システムー / 高橋（弘）研究室
 高度環境社会を支える高機能材料の開発 / 福山研究室
 環境・生命と調和する材料の開発 / 松原研究室
 地球に優しい環境保全技術 / 井上研究室
 生き物と私たちの暮らし・社会 微生物から特許が生まれる？ / 香坂研究室
 サプライチェーンを通じた資源の流れと環境影響 ーリンはどこから来て、どこへ行くのか？ー / 松八重研究室
 地殻エネルギー・資源のフロンティアへの挑戦 / 土屋研究室
 ライフスタイル変革のイノベーション / 古川研究室
 大都市における既存建築物の省エネ化を目指した施策分析：ポリシー・ミックスの役割 / トレンチャー研究室
 持続可能環境の実現「社会にインパクトある研究」

また、公開講座として、土屋研が実施する小中学生を対象とした実験講座「岩石の中をのぞいてみる」、駒井・渡邊研による「土と水 ー地盤の不思議とピカピカな世界ー」、古川研による一般対象の「落語で学ぶ未来の暮らし方」「ネイチャーテクノロジー&木育ワークショップ」が開催された。特に実験系の講座では事前に定員に達する盛況となった。



入試説明会

2017 年は、秋入試のための説明会を 2 回、春入試のための説明会を 2 回開催した。各回ともに、明日香入試実施委員長から環境科学研究科全体の入試群とコースについて紹介し、その後各入試群の説明を行った。

◆春期入試説明会

東京会場：6 月 7 日 18:30-20:30
 東北大学東京分室
 参加者 11 名
 仙台会場：5 月 27 日 13:00-15:00
 環境科学研究科本館
 参加者 10 名

◆秋季入試説明会

東京会場：11 月 29 日 18:30-20:30
 東北大学東京分室
 参加者 4 名
 仙台会場：12 月 2 日 13:00-15:00
 環境科学研究科本館
 参加者 15 名

第40回国立大学法人大学院 環境科学関係研究科長等会議

本研究科は、環境関連研究者ネットワークの構築を図るために環境科学関係の研究科長等により組織される「国立大学法人大学院環境科学関係研究科長等会議」に参画している。2017 年は新潟大学の主幹による第 40 回会議に出席し、研究科の運営等に関する情報を得ると共に、意見を交換した。

日 時：2017 年 7 月 7 日（金）
 会 場：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」講義室 A
 出席者：環境省 1 名、24 大学 45 名
 （本研究科からは研究科長、事務室長が参加）

講 演：

トキの保護に関する取組
 / 植田明浩 氏 環境省自然環境局野生生物課長
 森からの警告ー野生生物の生態と被害の現状ー
 / 箕口秀夫 教授 熊本大学
 北極海氷減少と、その気候学的影響
 / 浮田基郎 教授 熊本大学

協議題：

組織変更に伴う「国立大学法人大学院環境科学関係研究科長等会議規定」の改正について
 競争的資金で実施したプロジェクトの継続性維持の方策に関する検討結果について
 外国人留学生への支援内容・体制の整備や、留学生を受け入れやすい環境づくり、英語による授業科目の開講状況などについて
 環境科学人材の輩出について
 次回本会議の開催について

国際協力・交流関連

[RESDプログラム2017]

RESDプログラム (Regional Environmental and Sustainable Development) とは、本学、京都大学、東京大学、中国の清華大学、同済大学、韓国のKAIST (韓国化学技術院)、POSTECH (浦項工科大学)、GIST (光州科学技術院) の間で2008年に開始された博士課程の優秀な学生を対象とした、環境科学・工学・管理分野におけるリーダー的人材養成のプログラムである。2017年は、2017年7月5日～7月26日の期間において、韓国POSTECH、KAIST、中国清華大学、同済大学、東北大学で各国1週間合計3週間の交流プログラムが実施された。

各国の1週間プログラムは、学生からのカントリーレポートの報告、アジアの環境問題に関するレクチャー、現地調査、プレゼンテーション、ディスカッションから構成される。

また、本年はRESDプログラムの10周年という節目を迎え、7月21日に記念シンポジウムを東北大学にて開催し、10年を振り返りさらなる継続のための調印セレモニーを行った。



[国際交流活動]

本研究科では、海外との関係を重視し、海外の大学と研究や教育の交流と協力を行っている。中国、インドネシア、ベトナム、タイ、インド、韓国等アジアを中心に世界中に協力関係があり、現在6ヶ所にリエゾンオフィスを設置している (西安建築科技大学、上海交通大学、ホーチミン市工科大学、マレーシア工科大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学)。

2017年は、2月24日にタイ・カセサート大学工学部長および工学部関係教員らが来訪し、環境科学研究科との部局間協定を締結した。このことにより、アジア地域の研究交流、共同研究、教員・学生の受け入れの活発化に一層期待が高まった。

同2月27日にはバンドン工科大学 (ITB) において「TOHOKU UNIVERSITY Environmental Studies Seminar 2017 in ITB」を開催した。このセミナーには東北大学から植木理事、吉岡環境科学研究科長の他10名の研究者と、ITBやガジャマダ大学、ブラウ

ジャヤ大学、パジャジャラン大学、インドネシア大学、ボゴール農科大から約50名の研究者が出席した。インドネシアにおける環境科学研究、東北大学におけるインドネシア研究、東北大学とインドネシアとの国際交流に関するプレゼンテーションの他、国際共同大学院設立に向けた教育プログラムに関するパネルディスカッションを行い、活発な議論が展開された。また、ITBにおける環境科学研究科リエゾンオフィス設置に関するMOU (部局間協定期間延長の覚書) をITB土木環境工学科と締結した。同日夕方には東北大学を卒業したインドネシア人同窓生を招き交流会を実施した。

3月21日には新たにドイツの国連大学 環境・人間の安全保障研究所と学術交流協定を締結した。これは、本研究科が参画する「国際共同大学院」の構想に寄与するもので、本協定の締結により、人間の安全保障に関わる幅広い分野において、国際的視野と高度な専門性を有する人材を育成する基盤が築かれた。



環境科学研究科が協定締結に中心的な役割を果たしている海外機関

国	相手先大学等	協定	交流内容
アメリカ	コロラド鉱山大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
	アメリカ合衆国国際教育協会	大学間協定	学生交流
イタリア	ミラノ工科大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
インドネシア	ガジャマダ大学	部局間協定	研究交流
	バンドン工科大学	部局間協定	研究交流
	バンドン工科大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
	ブラウィジャヤ大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
	ボゴール農科大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
オーストラリア	オーストラリア国立大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
カナダ	ウォータールー大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
韓国	韓国科学技術院	大学間協定	リエゾンオフィス設置
スウェーデン	チャルマース大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
スペイン	バリャドリッド大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
タイ	アジア工科大学院	大学間協定	研究交流, 学生交流
	カセサート大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
中国	西安建築科技大学	部局間協定	研究交流, 学生交流
	上海交通大学	部局間協定	研究交流, 学生交流
	東北大学 (瀋陽)	大学間協定	研究交流, 学生交流
	同済大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
	同済大学環境科学工程院	部局間協定	学生交流覚書
清華大学環境科学工程院	部局間協定	学生交流覚書	
台湾	国立成功大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
ニュージーランド	オークランド大学	大学間協定	研究交流
ベトナム	ホーチミン市工科大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
マレーシア	マレーシア工科大学	部局間協定	研究交流
モンゴル	モンゴル科学技術大学	大学間協定	研究交流, 学生交流
ロシア	ロシア科学アカデミー極東支部	大学間協定	研究交流, 学生交流
ドイツ	国連大学 人間・環境の安全保障研究所	大学間協定	研究交流



索引

氏名	役職	ページ	氏名	役職	ページ			
あ	相田 卓	助教	52	た	高橋 英志	准教授	22	
	浅沼 宏 (産業技術総合研究所)	客員教授	64		高橋 弘	教授	14	
	壹岐 伸彦	教授	56		張 銘 (産業技術総合研究所)	客員教授	64	
	伊野 浩介 (工学研究科)	助教	50		土屋 範芳	教授	12	
	井上 久美	講師	50		田路 和幸	教授	22	
	井上 千弘	教授	10		轟 直人	助教	58	
	内山 愉太	助教	32		鳥羽 隆一	教授	34	
	宇野 正起	助教	12		トレンチャー グレゴリー	准教授	24	
	梅木 千真	助教	22		な	中島 英彰 (国立環境研究所)	客員教授	62
	大橋 隆宏	助教	34			中村 謙吾	助教	20
	岡崎 潤 (新日鐵住金株式会社)	客員教授	60			は	パール カエル	助教
	岡本 敦	准教授	12		平野 伸夫		助教	4
か	葛西 栄輝	教授	40	藤崎 成昭	教授		28	
	風間 聡 (工学研究科)	教授	44	古川 柳蔵	准教授		26	
	上高原 理暢	准教授	8	ま	町田 敏暢 (国立環境研究所)	客員教授	62	
	亀田 知人 (工学研究科)	准教授	46		末永 智一	教授	50	
	唐島田 龍之介	助教	56		松八重 一代	教授	30	
	川田 達也	教授	18		松原 秀彰	教授	8	
	簡 梅芳	助教	10		松本 伯夫 (電力中央研究所)	客員准教授	66	
	楠 一彦 (新日鐵住金株式会社)	客員教授	60		丸岡 大佑	助教	40	
	熊谷 将吾	助教	46	三橋 正枝	助手	26		
	熊谷 明哉 (材料科学高等研究所)	助教	50	村上 太一	准教授	40		
	グラウゼ ギド	准教授	10, 24	村田 功	准教授	42		
	香坂 玲	教授	32	村松 眞由	助教	18		
駒井 武	教授	20	や	八代 圭司	准教授	18		
コマロフ セルゲイ	教授	54		山本 卓也	助教	54		
小森 大輔	准教授	44		横山 俊	助教	22		
さ	齋藤 優子	特任助教		46	吉岡 敏明	教授	46	
	坂口 清敏	准教授	16	吉川 昇	准教授	54		
	坂本 靖英 (産業技術総合研究所)	客員准教授	64	ら	李 玉友 (工学研究科)	教授	44	
	佐藤 有一 (新日鐵住金株式会社)	客員教授	60		わ	渡邊 則昭	准教授	20
	佐藤 義倫	准教授	6			渡邊 賢 (工学研究科)	准教授	52
	里見 知昭	助教	14	渡部 良朋 (電力中央研究所)		客員教授	66	
	珠玖 仁 (工学研究科)	教授	50	和田山 智正		教授	58	
	下位 法弘	准教授	34					
	白岩 佳子	助手	34					
	白鳥 寿一	教授	34					
	鈴木 敦子	助教	48					
	スミス リチャード	教授	52					
関根 良平	助教	38						

環境科学研究科事務室職員

事務室長 齋藤 建一

総務係 係長 阿部 武浩
中村 緑
玉手 理絵
鹿野 美里
二階堂 敦子
館 智恵
高橋 弘恵
林 睦

教務係 係長 菅田 宙
吉田 千晶
赤坂 葉子
佐々原 裕子
佐久間 香奈

発行：東北大学大学院環境科学研究科

企画：広報室

発行日：2018年3月31日

制作：株式会社コミュニナ

お問い合わせは下記に

[環境科学研究科 総務係]

TEL 022-752-2233

FAX 022-752-2236

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1

<http://www.kankyo.tohoku.ac.jp/>